

歴史的分野 学習指導案

太子町立中学校

1. 日 時 平成 30 年 11 月 22 日（木）第 1 時限
2. 場 所 アウィーナ大阪 金剛の間
3. 学年・組 第 2 学年 B 組（35 名）
4. 単元名 「ゆらぐ幕府の支配」
5. 単元目標

日本の鎖国から開国への流れやその歴史的意義を、欧米の進出と関連づけ、さらに当時の人々に対する共感をともなう考察し理解する。

6. 教材観

本単元では、これまでも数多く実践されてきた「開国」について、ペリー来航時の老中阿部正弘に焦点をあてて学習する。通常、勝ち残った側の薩長の立場はよく扱われるが、滅ぼされた幕府側の人間はなかなか扱われない傾向にある。しかし、阿部正弘はペリー来航時に対応をせまられた人物であり、彼に焦点をあてて「開国」を学習する意義は大きい。開国か、攘夷かという選択の困難や苦悩を、阿部正弘という人物を通して切実にとらえさせ、理解させたい。

また、「開国」に向かう幕末は、新たな時代が変わろうとする 劃期^{かくき}にあり、従来の制度やシステム、ここでは祖法である鎖国や幕藩体制が外夷によって揺るがされることになる。政治的意思決定を迫られる場面では格好の教材である。

これまでの「開国」を扱った実践では、いわば「開国か」「攘夷か」という二者択一の構図でこの時代をとらえていたように思われる。しかし、この見方は妥当だろうか。少なくとも、当時の老中阿部正弘の立場から当時の状況を推察するに、それほど単純な構図ではない。当時の複雑な状況を、老中阿部正弘はどのようにとらえていたのだろうか。1 人の歴史上重要な人物の政策決定や決断から、その時代の本質的な理解にせまりたい。

7. 生徒観

「略」

8. 指導観

先述のとおり、歴史的分野では、「エンパシー」という考え方を採用し、単元を構想した。

「エンパシー」は、同じ「共感」ではあっても、「シンパシー」とは区別される。現在の文脈や感情で過去の人々の感情や価値観を理解しようとするのが「シンパシー」であるのに対し、過去の人々の感情を理解するために、その時代の文脈や価値観を明らかにしようとするのが「エンパシー」である。この「エンパシー」を歴史授業に導入することで、1 つの歴史授業の意義と、その具体を示すことができる。同じ場所であっても、過去は異文化である。このことをまず学習者に意識させ、我々の価値観から過去を眺めることよりも、まず過去の文脈において、過去の人物がなぜそのような考え（決断）に至ったのかを理解させたい。

本単元の「開国」における為政者阿部正弘や、阿部正弘に意見を述べた徳川斉昭、島津斉彬、勝海舟、一般民衆らの考えを理解する（見解を認識する）ために「エンパシー」を意識する。特に重要なのは、学習者が過去の文脈や価値観をどれほど意識できるかである。阿部正弘が下した決断において、なぜそのように決断したのかを考察する際に、阿部正弘のおかれた状況や文脈に関わる知識を用いて理解しようとしているか。それをどのような言葉で説明しているか。ここに、過去の人物の理解にお

いて、その人物の置かれた状況や文脈、価値観に寄り添おうとする「エンパシー」としての態度が現れることを期待する。

9. 単元の評価規準

A 知識・技能	B 思考力・判断力・表現力等	C 学びに向かう力・人間性等
○開国をせまられた当時の日本、幕府について、対外関係や国内情勢などに関連させながら、日本のおかれた状況を多面的・多角的に理解している。 ○開国時の諸資料から、過去の文脈、背景に関する情報を適切に読みとっている。	○開国当時の文脈に関する知識を用いて、開国すべきかどうかを判断している。 ○過去の人物の認識を、過去の文脈から推察したり、自らの考えを根拠にもとづいて表現したりしている。	○自らも過去に身を置きつつ、江戸末期の社会をより良くしたいという目的意識のもとに、当事者に共感している。 ○過去も異文化であるとの前提に立ち、幕末の人々の考えを理解したい切実性、必然性から多くの資料（史料）を参照し読みとろうとしている。

10. 単元の指導と評価の計画

時	学習内容	主な評価規準【観点】
第1時	欧米列強のアジア進出	アジアの諸地域に欧米列強が進出した理由・背景とその影響を考察し理解している。【A・B】
第2時	ゆらぐ幕府の支配(外国の接近)	日本に接近した外国を日本地図にまとめている。【A】
第3時	ゆらぐ幕府の支配(幕府への反乱)	江戸幕府に対抗した勢力が、なぜ反乱を起こしたのか、切実に読みとろうとしている。【C】
第4時	ペリー来航	ペリー来航時、日本国民、日本政府、アメリカ側の思いを読みとり、共感しようとしている。【A・C】
第5時	阿部正弘の決断	阿部正弘が開国か攘夷かを判断する際の、全国から集められた意見をそれぞれ資料から読みとっている【A】
第6時 (本時)	阿部正弘にどのように意見するかシミュレーション。阿部はなぜその選択をしたか。	阿部正弘の置かれた状況・背景をもって阿部に共感し、それをもとに阿部がなぜその選択をしたかを考察している。【B・C】
第7時	開国の影響	開国の結果、日本にどのような影響が生じたのか、諸資料をもとに考察している。【A・B】
第8時	江戸幕府の滅亡	江戸幕府滅亡までの流れを年表に整理している。【A】

11. 単元の構想図

【前単元】

近世日本は、「国」としての統率がとれていない、ある種の地方分権国家である。

国力（兵力や財力）は、大名統制と鎖国により抑制されていると言える。

① 大名統制の視点から、武家諸法度や大船禁止令など「国」としての兵力は乏しい。

② 幕藩体制下の日本はそもそも一国の「国」としての意識が国民にない。

（国＝藩）

③ 鎖国のもとで、日本は蝦夷、朝鮮、中国・オランダ、琉球との国交は維持している

【本単元】

【本時】

◎阿部正弘の決断・苦悩

祖法の鎖国を守ってきた日本に欧米諸国の開国要求。幕府将軍として、広く意見を聞いた阿部正弘はどの意見を、なぜ選んだのか。

◎攘夷策
（徳川斉昭）

◎開国策
（勝海舟）

◎回答延引策
（島津斉彬）

◎ペリー暗殺策
（一般庶民）

◎欧米諸国のアジアへの進出

- ① イギリスの産業革命・アジア進出
- ② アメリカのフロンティア・太平洋進出
- ③ ロシア船の来航
- ④ アヘン戦争

◎ペリー来航・開国要求

- ① 産業革命の影響を受けた外輪船、ペキサンス砲の黒船
- ② フィルモア国書
- ③ 武力行使をいとわないうペリー
（江戸湾測量・米墨戦争図によるおどし）

◎ゆらぐ幕府の支配

- ① 天保の飢饉
- ② 水野忠邦による天保の改革
- ③ 大塩・生田万の乱

12. 本時の展開（阿部正弘の決断②）

- 【学習のねらい】・当時の文脈をふまえて、開国すべきかどうかに対する 4 つの意見をシミュレーションによって表現する。
・当時の阿部正弘に共感し、阿部正弘の選択の理由を考察・説明する。

学習事項・学習のねらい	学習活動・学習内容	学びの支援と留意点	【観点】評価規 準（評価方法）			
○導入（5 分） ・阿部正弘が立たされた開国までの状況を復習する。 ・開国当時の日本の状況に関心をもつ。 ○課題 1（10 分） ・4 つのそれぞれの立場について、班で 1 人 1 つ担当し、阿部正弘にアドバイスを するシミュレーションをする。	＜一斉＞ 【映像資料】 ・アメリカから開国をせまられ、悩む阿部正弘の心情に寄り添う。 【映像資料】 ・『邊蛮彙議』の資料に関する映像を流す。 →開国すべきかどうかに対して、おおよそ 4 つの立場が示される。 ＜6 人班＞ <table><tr><td> 課題 1 ・攘夷策の徳川斉昭 ・開国策の勝海舟 ・回答引き延ばし策の島津斉彬 ・暗殺策の庶民 </td><td rowspan="2">} それぞれの立場の人間になって 阿部正弘にアドバイスしてみよう！</td></tr><tr><td>⇒ワークシートの課題 1 を参照。</td></tr></table> →挙国一致政策をとった阿部正弘は、全国の御三家、旗本、朝廷、一般民衆にまで意見を求めた。全国から集められた意見が記された資料『邊蛮彙議（てきばんいぎ）』から示された 4 つの立場について、班員がそれぞれ 4 つのうちの 1 つを担当し、阿部正弘にアドバイスを するシミュレーションをする。（逆に心配事も確認しておく） 表現―意見を班の中で発表する。班の中で 1 人ずつ発表し、班で 4 つの立場の意見を整理する。	課題 1 ・攘夷策の徳川斉昭 ・開国策の勝海舟 ・回答引き延ばし策の島津斉彬 ・暗殺策の庶民	} それぞれの立場の人間になって 阿部正弘にアドバイスしてみよう！	⇒ワークシートの課題 1 を参照。	・プロジェクターで映し出された資料を見るように指示。 ・この日本の置かれた状況をふまえるよう指示する。	【学びに向かう力・人間性等】 老中阿部正弘の立たされた状況への関心。（観察） 【思考力・判断力・表現力等】 4 つの立場について、自分が担当する立場の人の意見をシミュレーションし、当時の状況をふまえて表現している。（ワークシート）
課題 1 ・攘夷策の徳川斉昭 ・開国策の勝海舟 ・回答引き延ばし策の島津斉彬 ・暗殺策の庶民	} それぞれの立場の人間になって 阿部正弘にアドバイスしてみよう！					
⇒ワークシートの課題 1 を参照。						

